

事項も妙くない。次に本組合に於ては其の主催の下に北九州産業労働研究會を設立し第一回を十一月に第二回を十二月に夫々開催し、兩回とも社會運動往來社々長小林五郎氏來幡指導するところありしが、第二回には本組合員の外愛國政治同盟八幡支部米村顧問在幡日本總會本部産業部長倉富金市氏等の參加者あり、尙將來は事業主側の出席をも希望してゐるのであつて、其の會の趣旨とするところは、一總督府の一部に――資本家も労働者も、共に利己心を捨て相協力して産業を守り業績を擧げて以て祖國に奉仕する事が日本國民として第一の任務でなければなりません同時に其處にこそ我々日本労働者の眞實の向上があり幸福が齎らされるのであります。其の爲には労働運動の根本精神の第一主義は先づ「道義に基く公正なる勞資關係の確立」でなければならぬのであります尤

我々の運動は自ら率先して日本労働者たるの本分を盡し、その迫力を以つて事業主をして覚醒せしめ其處に格なき勞資融合の理想郷を現出して祖國の爲に奮起精勵するところがなければならぬのであります。云々」とあるに依つて知らるるのである。

次に夏正日本勞愛會は、昭和七年若松市失業救済事業就業者を以て組織された革新労働組合の後身にして、即ち昭和八年八月の改組に依り同年末の大會に於て日本主義を以て指導方針となすことを聲明したのである。而して日常市當局に對し失業救済事業の遂行、補給米の給與、託兒所の設置等失業者の生活補護運動を繼續すると共に、一方東海鐵業會社若松工場従業員を以て東海支部を結成し、臨時人夫の待遇改善要求運動をなし漸次組合の勢力を擴大しつつあり、福岡地方